

2022年度 第1回一橋大学政策フォーラム



HITOTSUBASHI UNIVERSITY
一橋大学は2025年に創立150周年を迎えます。

2023年度新設 一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部・研究科

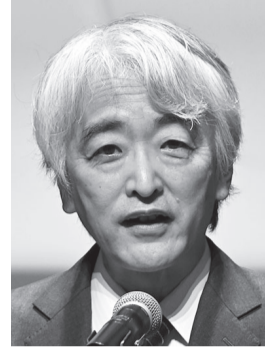
開設記念シンポジウム「ソーシャル・データサイエンスの未来へ」

データ時代こそ文理共創

2023年4月、一橋大学にソーシャル・データサイエンス学部・研究科が新設される。新学部の発足は約70年ぶり。これを記念して、22年度1回目の「一橋大学政策フォーラム」は「ソーシャル・データサイエンスの未来へ」をテーマに開催した。ソーシャル・データサイエンスは文理融合の新たな学問領域だ。データ活用の機運が高まる中、広く社会と連携して求められる人材と価値を創出していく姿勢を明確にした。

開会挨拶

次の150年への一歩



一橋大学長
中野 聡氏

一橋大学は2025年に創立150周年を迎える。ソーシャル・データサイエンス学部・研究科の新設は、

数え切れない皆様から幅広い支援をいただいた。深く感謝したい。

次の150年に向けた第一歩だ。発足に当たり文部科学省をはじめ産業界や学術機関、同窓会の如水会など

来賓挨拶

イノベーションの拠点に

人工知能(AI)研究のトップランナーに研究で最も大切なことは何かと聞いたところ、「それは倫理だ」と答えた。科学だけが先走るのはいけない。まさに



三菱地所 取締役会長
一般社団法人如水会 理事長
杉山 博孝氏

一橋大学は国際的に通用する産業界のリーダー、キヤテンズ・オブ・インダストリーの育成を掲げている。企業が膨大なデータが蓄積されており、その活用が大きな課題だ。新学部・研究科は産業界との連携を深めながら成長を目指してほしい。課題解決型学習(PBL)などを通じて地域社会も巻き込み、イノベーションプロジェクトの拠点となることを願っている。

ソーシャル・データサイエンス学部・研究科の概要説明

課題解決の実践力養う



一橋大学
ソーシャル・データサイエンス
教育研究推進センター准教授
加藤 諒氏

具体的な方策を提案・実行する実践力を養う。

大学院の研究科ではソーシャル・データサイエンスのスペシャリストを育成する。異なる部門の教員による集団指導体制を敷き、データサイエンスのELSI(倫理的・法的・社会的課題)やビッグデータの扱い方法なども学ぶ。

現代の課題は社会科学のみ、データサイエンスのみでは解決できない。社会科学とデータサイエンスを融合させたソーシャル・データサイエンスが必要だ。

新学部ではソーシャル・データサイエンスのゼネラリストを育成する。社会科学の複数領域やデータサイエンスの体系的な知識を学び、ビジネスや課題の現場との連携を進めていく。

基調講演



滋賀大学長
竹村 彰通氏

日本のデジタル競争力は主要国の中で低い水準にあるとされる。そうした中で政府は「AI戦略2019」を策定。デジタル社会の「読み・書き・そろばん」と

文理融合で変革に挑む

「ス・AI教育プログラムを政府が認定する制度の利用は急増。データサイエンス学部の創設も相次ぎ、教員不足が深刻化している。統計数理研究所が中核となり、全国の大学が参画して統計エキスパート人材の育成を進めている。

データサイエンスは、それを活用して社会の発展に寄与することが大事だ。一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部・研究科には、データサイエンスで日本を変革する気概を持った人材を育ててほしい。

パネルディスカッション



パナソニック 顧問
前環境省地球環境審議官
正田 寛氏



日本銀行
金融研究所長
副島 豊氏

<コーディネーター>



一橋大学
ソーシャル・データサイエンス
教育研究推進センター
副センター長
七丈 直弘氏

の関係にある。脱炭素に向けた取り組みもデータを使いながら進められている。また、政府全体で統計のオープンデータ化に取り組んでおり、環境に対する企業の情報開示も進みつつある。

データの無機質であるがゆえに共通言語となり、価値観の相違を超えたファクトベースの議論が可能になると期待される。膨大なデータを選択・分析・解釈していくに有用な情報に昇華させるのが鍵だ。脱炭素と地域活性化の同時解決を図るなど、創造的な課題設定もポイントになる。

坪井 人的資本経営といわれ、社会全体で人を育てていく時代だ。先が見えないからこそ、課題形成力や構想力を養う必要がある。新学部・研究科においても一橋大学ならではの文理融合教育で、リーダシップやリベラルアーツを含む総合的人財育成に期待する。

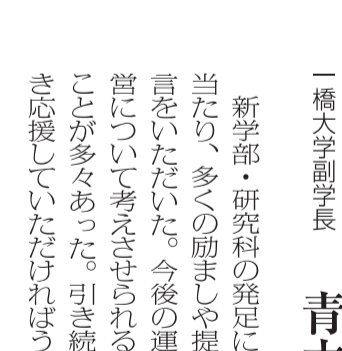
渡部 データサイエンスと社会科学を融合して、社会やビジネスの課題を解決していきたい。そのためには実際の課題とデータに基づいて研究・教育を進めることが重要だ。企業や官公庁と連携を深めてPBL演習(なを充実させたい。

広がる未来の可能性

たことも大きい。新学部・研究科では多様なデータの活用について学ぶ。環境問題だけでなく地域ごとの課題を見つけていく。AIによる二酸化炭素(CO2)排出量の効率的な削減を考え、

七丈 今後こうした対話の場を設けたい。新学部・研究科が最大限の成果を生んでいくには、産官学のステークホルダー(利害関係者が継続的に話し合いを重ねていくことが重要だ。

開会挨拶



一橋大学副学長
青木 人志氏

新しい。受験生の皆さんには、ぜひ一橋大学に来てほしいと伝えたい。

社会に開き連携深める



このからの大学は、卒業生や社会とどう連携していく、連携してよかったと思われ存在に変わった。大学の目指すべき方向の一つとして「ひろく」というキーワードを挙げています。本学はますます社会性を発揮して、卒業生や社会とのつながりを深めていきたい。



一橋大学
ソーシャル・データサイエンス
教育研究推進センター長
渡部 敏明氏



キリンホールディングス
常務執行役員
一橋大学経営協議会委員
坪井 純子氏

七丈 ソシャル・データサイエンスによりどんな未来が開けていくか。

副島 価格、数量、指数といった伝統的なデータに加えて、テキストや位置情報、画像、音声などのデータも扱えるようになった。

坪井 先の見えない時代、企業も社会もイノベーションと社会課題解決こそが、未来を拓き、持続的成長を生むキートン。

正田 環境省は脱炭素地域づくりや地域経済循環分析などを通じて、環境問題だけでなく地域ごとの課題を見つけていく。

渡部 データサイエンスの急速な発展は、コンピュータの処理能力が向上し